

簿記・会計 解説

第1問 A

問1.(ア)に入るものは**1**「総勘定元帳を主要簿、仕訳帳を補助簿という。」
総勘定元帳、仕訳帳とも主要簿である。補助簿は主要簿では補えない詳細な内容を記録する帳簿のことで現金出納帳、仕入帳、買掛金元帳などがあります。

問2-(1).(イ)に入るものは**2**「5/買2」
仕訳帳から買掛金の勘定元帳と買掛金元帳の2冊に転記しているため、それぞれの元丁（勘定元帳の5ページと買掛金元帳の2ページ）を記入する。

問2-(2).(ウ)に入るものは**3**「統制」勘定

問3.(エ)に入るものは**3**「振替」仕訳
決算で収益、費用を損益に置き換え、当期純利益（純損失）を求める仕訳のこと。

問4.(オ)に入るものは**0**「繰越試算表」
繰越試算表は決算時の資産・負債・資本の期末残高の照合のために作成される表。
精算表は資産・負債・資本に収益・費用を加え決算手続きを行うための表。精算表を元に貸借対照表、損益計算書が作られる。

問5. 総勘定元帳の商品、商品売買益の勘定元帳から今期の商品および商品売買益の取引の仕訳を表すと

現金	240	商品	240
売掛金	270	商品	270
商品	520	買掛金	500
現金	160	商品売買益	160
売掛金	180	商品売買益	180

これらの仕訳を3分法により仕入、売上で書き表すと

現金	240	売上	240
売掛金	270	売上	270
仕入	520	買掛金	500
現金	160	売上	160
売掛金	180	売上	180

商品売買による収益は売上にあたるため、上の仕訳の売上の合計 $240+270+160+180 = 850$ 円が求める総額である。

問6.
(1) 資料1より

資産 = (現金、売掛金、商品、備品の繰越高の合計)
= $150 + 350 + 200 + 320 = 1020$
資本 = (資本金の繰越高) = 500

となるため、

負債 = (資産 - 資本) = 1020 - 500 = ￥520 (解答群の **5.**)

資料1において負債の勘定は買掛金と借入金であるため、買掛金の繰越高は $520 - 250 = 270$ である。

(2) 合計試算表の貸借の合計額は仕訳帳の決算仕訳前の借方、貸方の額 ￥3,980 (解答群の **b.**) である。

(3) 仕訳表の決算仕訳から当期の費用は ￥470 (解答群の **4.**) である。

(4) 資本金の勘定元帳の空欄は決算日 12/31 の借方であるため、空欄には当期の純 (損失) である。 $600 - 520 = ￥80$ (解答群の **1.**) が入る。

なお、これらの解答に基づいて資料2の勘定元帳の空欄を埋めると以下のようになる。

買掛金			6		
	現金	450	1/1	(前期繰越)	(270)
12/31	次期繰越	(320)		商品	270
		(770)			(770)

資本金			7		
12/31	(損益)	(80)	1/1	前期繰越	500
	次期繰越	520		現金	100
		600			600

商品売買益			8	
(12/31)	(損益)	340	現金	160
	/		売掛金	180
		340		340